

## 宇都宮市立田原中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●普段(月～金曜日)、一日当たり、携帯電話やスマートフォンを使って通話やメールをする時間(ゲームをする時間は除く)が2時間以上と回答した生徒の割合は(42.8%)4割を超えている。今後は、今まで以上に保護者と協力し、各家庭でのルールづくりや、インターネットの適切な利用について、適切な指導を図っていきたい。

●家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしていると回答した生徒の割合は、(36.7%)栃木県の平均を10ポイント以上、全国平均を7ポイント以上下回っている。思春期の子供を持つ親としてできることを、保護者会などを利用して、共に考えていく機会を増やしていきたい。

●学校に行くのが楽しいと回答した生徒の割合は、(45.9%)栃木県の平均を7ポイント以上下回っている。また、学校で、好きな授業があると回答した生徒の割合は、(36.7%)栃木県の平均を22ポイント以上、全国平均を16ポイント以上下回っている。生徒にとって居心地の良い学校、主体的に学びたいと思える授業を展開することは、教師側の大きな課題として受け止め、改善していきたい。

○いじめは、どんな理由があってもいけないと回答した生徒の割合は、(88.8%)栃木県の平均を9ポイント以上、全国平均を15ポイント以上上回っている。いじめゼロ集会や、いじめを題材にした道徳の授業を実施すること、普段からの積極的な生徒指導や、学校行事とおとしての思いやりの心の育成に力を入れていきたい。こういう取り組みの成果が、人が困っているときは進んで助けるという質問の肯定割合が、(90.8%)栃木県や、全国平均を上回っていることに表れている。

●家庭学習について、9割近くの生徒が「家で、学校の宿題をしている」と回答しているが、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒は5割にも満たない。課題以外の家庭学習に対する生徒の意識が低い本校では、ほとんどのクラスで「自主学習ノート」の取り組みをしている。今後もそれを中心に特別努力月間などを設けて、定期テスト前のみならず普段からの家庭学習に対する意識を高めさせ、積極的に生徒の努力を評価し、励ますことで生徒一人ひとりに意欲を持たせていきたい。

○話し合い活動について、「生徒の間で話し合う活動」は全国や県に比較して多くはないが、「活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒が4人に3人以上いた。これは全国や県と比較しても5～10ポイント上回っており良好な結果となっている。今後も各教科の授業において積極的に話し合い活動を取り入れ、相手の考えをよく聞いたり自分の考えを練り直したりする経験の場をより多く提供して、広くて深い思考を伴う協働的な授業を目指していきたい。

## 宇都宮市立田原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組             | 取組の具体的な内容                                                                                               | 取組に関わる調査結果                                                                                        |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業における「本時のねらい」の提示  | どの授業も、授業の始めに「本時のねらい」を必ず提示(板書)して、生徒一人ひとりにその時間に学ぶ(身につける)ことを明らかにした上で授業を進めている。提示の仕方・説明・タイミングは各教科の工夫にゆだねている。 | 「1. 2年のときに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は96.0%で、全国と比較しても8.2ポイント上回っている。        |
| 授業における「ふり返し」の充実    | どの授業も、授業の最後に「本時のねらい」に関する「ふり返し」を必ず行い、その授業で学んだ(身につけた)ことを確認させる時間を取っている。ふり返りの仕方(板書・ワークシート等)は各教科の工夫にゆだねている。  | 「1. 2年のときに受けた授業の最後に学習内容振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は60.2%で、全国と比較すると5.9ポイント下回っている。       |
| 「学び合いグループ活動」の積極的導入 | グループ活動を通して言語活動をより充実させるようにしている。生徒が目的意識を持って主体的に活動するような協働的な授業を目指して、各教科で様々な形態のグループ活動を研究している。                | 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は75.6%で、全国と比較しても10.8ポイント上回っている。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                                    | 重点的な取組                             | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」や「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」の質問に7割近くの生徒が肯定的に回答している。 | 言語活動をさらに充実させて、生徒一人ひとりの学習リテラシーを高める。 | 様々な言語活動の中から「書く」「話す」「発表する」の3観点に絞って研究を進めることにより、本校の生徒の傾向である受動的な姿勢を改善し、不足している主体性を育てていきたい。この3観点を自主研修課題とした「公開授業週間」を持ち、その成果と課題から教師全員が「学力向上改善プラン(授業改善の具体策)」を作成し、途中修正を加えながら今年度それぞれの授業に反映させていく予定である。 |